

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 18 日現在

機関番号：23501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370181

研究課題名(和文) 占領期から1950年代までの「日米合作映画」に関する研究

研究課題名(英文) Reserch on the film of reallionship between US and Japan during the Cold era

研究代表者

志村 三代子 (shimura, miyoko)

都留文科大学・文学部・准教授

研究者番号：20409733

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：2013年～2015年の研究期間中、毎年、ワシントンDCの国立公文書館で冷戦時代の「日米合作映画」の調査を行った。その成果は、2本の学術論文(査読付学会誌)を執筆、5回の口頭発表(うち国際学会2回、全国大会1回)を行った。また、社会貢献活動として、占領期の沖縄ではじめてロケーション撮影された『戦場よ永遠に』の上映会を沖縄県宜野座村で行い、シンポジウムのパネリストとして映画の解説を担当、『琉球新報』に紹介記事を執筆した。『戦場よ永遠に』、『サヨナラ』に参加した関係者にインタビューを行った。

研究成果の概要(英文)：I researched the film of reallionship between US and Japan during the Cold era in National Archives in Washington D.C from 2013 to 2015.I revealed the unique reallionship between the US and Japan as represented in Hollywood movies during the Cold era.The results was as below.  
2 articles, 5 presntation, 1 newspaper article, Interviews with peoples concerned.

研究分野：映画史

キーワード：占領期 日本映画史 日米関係 大衆文化論 冷戦

1. 研究開始当初の背景

これまでの日米関係を取り上げた研究では、歴史学や政治学が重要な役割を果たしてきたが、映像メディアの分析を中心とした両国間の関係を掘り起こした研究はなされていない。本研究は、占領期から1950年代に集中的に製作された「日米合作映画」を取り上げ、映像作品の分析のみならず、日米双方の映画界と政府間の交渉が記録された文献資料をも精査することによって、冷戦時代に仮定された日米関係の具体的なイメージを明らかにしようとするものである。

従来の映像研究では、ハリウッド映画に描かれた(他国)他者表象についての様々な研究がなされてきた。たとえば、村上由美子著『イエロー・フェース-ハリウッド映画にみるアジア人の肖像』、垣井道弘著『ハリウッドの日本人-映画に現れた日米文化摩擦』などは、1910年代から近年にいたるまでのハリウッドが描いた「日本」及び「日本人」のイメージの変遷を具体的に論じている。一方、欧米の研究では、ロバート・G・リー『オリエンタルズ-大衆文化のなかのアジア系アメリカ人』、Gina Marchetti『Romance and the "Yellow Peril"』、Klein, Christina『Cold War Orientalism: Asia in the Middlebrow Imagination, 1945-1961』などがある。だが、これらの研究は、専らハリウッド映画から見た人種、ジェンダーの観点から分析された「日本」及び「日本人」のステレオタイプの分析にとどまっており、占領期から1950年代までに計12作品もの「日米合作映画」が製作されてきた事実(占領期~1950年代の日米合作映画一覧参照)にもかかわらず、映像メディアから見た日米の相互補完関係に注目した研究は手つかずのままであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、占領期から1950年代に製作された「日米合作映画」の分析を通して、当時の日本とアメリカがいかなる相互関係にあったのか、とりわけアメリカ統治下の沖縄と日系人の問題を視野に入れることによって、アメリカが想定した東アジアにおける前哨基地としての日本の具体像を多面的に究明することである。さらに、「日米合作映画」の中に表れた「日本」及び「日本人」イメージの海外進出に注目し、その仔細を探ることで、日本のコンテンツ産業の源流をも明らかにする。研究方法としては、1)「日米合作映画」計12作品の映像分析 2)文献資料の丹念な調査 3)映画作品の翻訳・日本語字幕作成の三点を統合させることによって、映像メディアからみた占領期~1950年代の日米関係の全体像を解明する。

1) 占領期~1950年代の「日米合作映画」から見た日米関係を多面的に捉える。

ハリウッド映画における他者表象は、草創期にあたる1900年代から取り上げられているが、日本の表象は、他の国と比較しても圧倒的に多く、戦時期の反日プロパガンダ映画

では残虐で好色な悪役に据えられていた。ところが、占領期~冷戦時代の「日米合作映画」ではそれが一転し、朝鮮戦争を背景としたアメリカ人兵士と日本人女性の恋愛を主題とした映画が急増する。そこで、本研究では、「日米合作映画」の分析に、兵士(アメリカ)と女性(日本)というジェンダー表象の不均衡に加え、アメリカ統治下の沖縄と日系人の問題へと発展させることで、単なる二国間の連携ではなく冷戦時代に置かれた重層的な日米関係の全体像を多面的に捉えていく。

2. 国際市場における日本のコンテンツキャラクターの潮流を究明する。

「日米合作映画」では、理想化されたGI、仮想敵としての反共産主義のイメージが反復されるが、特にゲイシャガールが頻繁に描かれており、現代のコンテンツ産業の先駆的な存在ですらある。本研究では、「日米合作映画」で描かれたゲイシャガールが対アメリカとの関係においてどのような役割を担っていたのかを解明することで、戦後「日本」のイメージの源流と現代のコンテンツ産業のキャラクターとの相関関係を明らかにする。

3. 研究の方法

【1】アメリカ政府とハリウッドの各映画会社との交渉が記録された文献資料を解読・整理し、「日米合作映画」の企画から公開にいたるまでの過程を検証する。【2】同時に日本の映画会社が企図した海外輸出の経緯を、国内外の関連資料から調査・分析する。【3】ソフト化されておらず、かつフィルム鑑賞が可能な場合、所蔵機関(国立近代美術館フィルムセンター)で試写会を催し内容の確認に努める。【4】アメリカで販売されているにもかかわらず、字幕がない映画作品に関しては、アメリカ人研究者と共同でこれを翻訳・日本語字幕を作成する。【5】国内/海外の学会・研究会で適宜研究発表を行い、研究協力者の参加を得て研究を拡充させる。【6】映像・文献資料の両面から可能な限り分析・検証を行った「日米合作映画」の該当映画作品に詳細な解題・注釈を施し、データベースをさらに充実させる。【7】研究成果は論文集を作成して普及を図り、他の研究者とも共有する。

占領期~1950年代の日米合作映画一覧

製作年	タイトル	製作会社	監督	主演
1951/1/26	「東京ファイル212」Tokyo file 212	ブレイクストン・プロ/東日興行	ダリルスチュワート・マックグワン	ロバート・ベイトン、フローレンス・マリー
1951/6/29	「運命」oriental evil	ブレイクストン・プロ/東宝	George P. Breakston/C. Ray Stah	マーサ・ハイヤー、バイロン・ミッキー
1951/12/7	「二世部隊」Go for broke!	MGM/大映	ロバート・ピロッシュ	ヴァン・ジョンソン、レーン・ナカノ
1952/5/2	「Geisha Girl」(「芸者屋の一度」)	ブレイクストン・プロ/東映	レイ・スタール	Archer MacDonald, Steve Forrest
1952/10/30	「いついつまでも」Feng ye qing	大映	ポール・スローン	クリス・ドレイク、木村三津子
1953/6/28	「アナタハン」Anat han	大和プロダクション	ジョセフ・フォン・スタンバーグ	根岸明美、中山昭二
1955/8/28	「東京暗黒街 竹の家」House of Bamboo	20世紀フォックス	サミュエル・フレア	ロバート・スタック、シャーリー・ヤマグチ
1955/11/29	「やさしい狼犬部隊」Three Stripes in the Sun	コロムビア	ロバート・マーフィ	アルド・レイ、木村三津子
1957/1/22	「八月十五夜の茶屋」The teahouse of the August moon	MGM/大映	ダニエル・マン	マーロン・ブランド、グレン・フォード
1957/12/20	「サヨナラ」Sayonara	Pennebaker Productions	ジョシュア・ローガン	マーロン・ブランド、高美以子
1959/2/3	「黒船」The Barbarian and the Geisha	20世紀フォックス	ジョン・ヒューストン	ジョン・ウェイン、安藤永子
1960/4/1	「戦場より永遠に」From hell to eternity	Allied Artists Pict	フィル・カールソン	ジェフリー・ハンター、デヴィッド・ジャンセン

## 1 映像分析

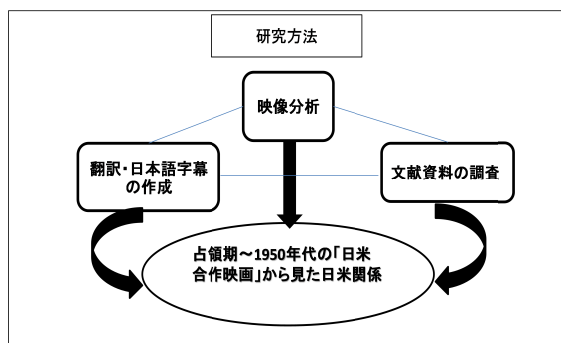
現在、占領期から 1950 年代に製作・公開された「日米合作映画」は計 12 作品にのぼるが、日本でソフト化されている作品は『二世部隊』、『東京暗黒街 竹の家』、『Sayonara』、『黒船』、『戦場より永遠に』の 5 作にすぎず、あとの 7 作は存在すら知られていないものもある。まずは、国内に所蔵されている未 DVD 化作品に関しては、国立近代美術館フィルムセンターにてアメリカ人研究者の協力を得て試写を行い、内容の確認に努める。

## 2 文献資料の調査

主に GI が登場する「日米合作映画」の企画・製作・公開では、占領期は GHQ、1950 年代は国防総省が深く関与し、日本の警視庁、警察庁も撮影に協力していた。したがって、「日米合作映画」の分析には映画会社と政府の連絡・交渉が記載された文書（公式文書、電報、シナリオ検閲、メモランダムなども含む）の解読と日本におけるコンテンツ産業の輸出過程を調査することが不可欠である。ワシントン D.C の公文書館では、映画作品ごとにファイリングされており、精緻な調査・研究に対しても便宜が図られている。映像分析にこれらの文献調査を充実させることによって、さらなる研究の進展が期待できる。

## 3 翻訳・日本語字幕の作成

別表の「占領期～1950 年代の日米合作映画一覧」の調査項目を充実させ、広く国内外の研究者に浸透させるためには、アメリカで販売されている映像ソフト（計 12 作品を既に入手済み）を翻訳し、日本語字幕を作成することが不可欠である。そこで、日本在住のアメリカ人と共同で翻訳作業を行い、日本語字幕を作成し、その成果を国内／海外の学会で発表することによって、「日米合作映画」の普及に努める。



### 【平成 25 年度】

調査・分析に着手 翻訳・日本語字幕の依頼と作成 国内／海外における研究発表。

過去に作成した占領期から 1950 年代に製作された「日米合作映画」の基礎的一覧（製作年、映画タイトル、製作会社、監督、主演）から「脚本」「撮影」「新聞・雑誌紹介記事」「批評」「著作権の有無」の項目を追加し、以後、それらを東京、関西、アメリカでの資料調査によって補完し、完全な目録を作成する。東京では、早稲田大学演劇博物館、国立

近代美術館フィルムセンター、川喜多記念文化財団、松竹大谷図書館、東宝資料室など、関西では、京都文化博物館、東映太秦映画村映画文化館、立命館大学アトリサーチセンターなど、海外については、ワシントン D.C の議会図書館・公文書館、メリーランド大学（ブランゲ文庫）、ロサンゼルス Margaret Herrick Library、UCLA 図書館などで調査を行う。同時に、日本在住のアメリカ人研究者と共同でシナリオの翻訳・日本語字幕の作成を進めてゆく。また、本研究に関連のある国内の学会（日本映像学会、表象文化論学会、日本近代文学会）と海外の学会（Society Cinema and Media Studies）にエントリーして研究発表を行い、交流と普及に努める。

### 【平成 26 年度以降】

調査・発表の継続と集約 日本語字幕つき DVD の電子媒体の作成・論文集の執筆刊行

以後、翌年度以降も、調査・分析・翻訳作業を継続するとともに、研究期間最終の平成 27 年度においては、研究論文を執筆、刊行する。また、著作権法の規程を十分に確認・検討した上で、日本語字幕を付した電子媒体を作成・配布し、広く研究者の便宜に供する。

## 4 研究成果

2013 年～2015 年の研究期間中、毎年、ワシントン DC の国立公文書館で冷戦時代の「日米合作映画」の調査を行った。その成果は、2 本の学術論文（査読付学会誌）を執筆、4 回の口頭発表（うち国際学会 2 回、全国大会 1 回）を行った。また、社会貢献活動として、占領期の沖縄ではじめてロケーション撮影された『戦場よ永遠に』の上映会を沖縄県宜野座村で行い、シンポジウムのパネリストとして映画の解説を担当、『琉球新報』に紹介記事を執筆した。『戦場よ永遠に』、『サヨナラ』に参加した関係者にインタビューを行った。

## 5 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

志村三代子

「冷戦初期における米国国防総省の映画製作 『二世部隊』の製作協力をめぐって」、『Intelligence』、査読有、15 号、2015、38-48

志村三代子

「冷戦期ハリウッド映画における日本表象 『サヨナラ』(1957 年)の生成過程をめぐって」、『Intelligence』、査読有、14 号、2014、138-148

〔学会発表〕(計 5 件)

志村三代子

「サイパンから沖縄へ 『戦場よ永遠に』の映画化をめぐって」、冷戦研究会、2015 年 11 月 14 日、東京大学（東京都文京区）

志村三代子

The Trilateral Relationship of the United States, Japan, and Okinawa in Hell to Eternity (1960)、Society Cinema and Media Studies、2015 年 3 月 28 日、シアトル（アメ

リカ)

志村三代子

「ゴジラ、アメリカに上陸 反戦・原子力のアナロジーからアメリカの文化的アイコンへ」第6回現代日本映画文学相関研究会、2014年12月20日、甲南女子大学(兵庫県神戸市)

志村三代子

「冷戦期ハリウッド映画における日系人表象 『二世部隊』を中心に」、日本映像学会第40回大会、2014年6月7日、沖縄県立芸術大学(沖縄県那覇市)

志村三代子

Hanae Mori; the pioneer in the field of the costume design in the post war Japanese cinema、Society Cinema and Media Studies、2014年3月22日、シカゴ(アメリカ)

6. 研究組織

(1)研究代表者

志村三代子 (SHIMYRA Miyoko)

都留文科大学文学部・准教授

研究者番号：20409733